まごいし　いせき

孫石遺跡

2013年10月26日

愛知県埋蔵文化財センター

ゆるい斜面に平安時代の遺跡が広がる様子　（孫石遺跡13B区１面遺構全体）

穴に柱を埋めて立てる建物の痕跡　（13B区１面で検出された掘立柱建物跡）

孫石遺跡は縄文時代・平安時代・近代の３時期にわたる複合遺跡です。

縄文時代では、石器や土器がわずかに出土するのみでした。しかし、動物を捕獲するための陥し穴がいくつかあり、これも縄文時代のものと推定されます。

平安時代では、溝で囲まれた緩斜面に建物跡や鍛冶炉跡などが展開します。多くの灰釉陶器碗・皿や土師器鍋なども出土し、そこで継続的に営みがあったと想定されます。

近代では炭焼窯がいくつか発見されました。

孫石遺跡の縄文時代？

13B区陥し穴４堆積状況

13B区陥し穴３ピットの堆積状況

13B区陥し穴２ピットの堆積状況

13B区陥し穴１堆積状況

13B区陥し穴１～４の位置

13B区陥し穴１完掘状況

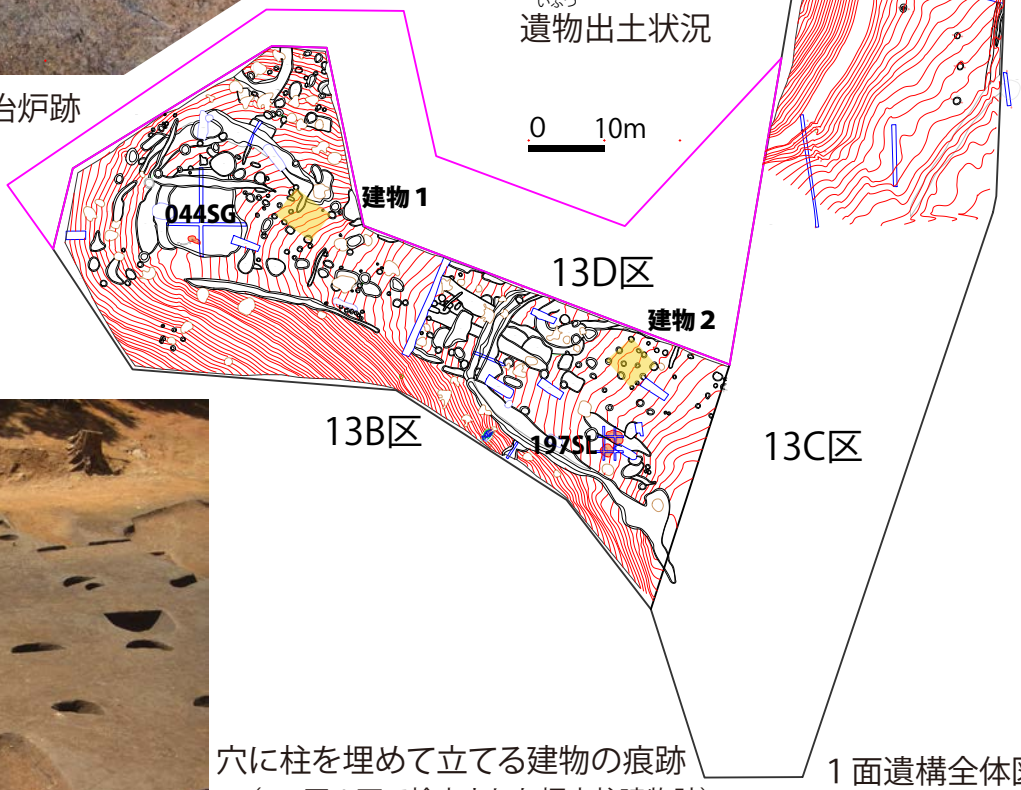
13A区陥し穴５完掘状況

孫石遺跡の平安時代

陶器碗などがたくさん出土した大きな浅い穴（13B区大型土坑044SG）

鉄製品を加工した鍛冶炉跡
（13B区197SL）

遺物出土状況



1 面遺構全体図

穴に柱を埋めて立てる建物の痕跡
（13B区 1 面で検出された掘立柱建物跡）

孫石遺跡の近代

炭焼窯２の石を敷いた床面
（13B区297SY）

炭焼窯１と灰捨て場（灰原）
（13A区001SY）

13B区遠景

13A区の谷地形

孫石遺跡調査データ

所在地	豊田市下山田代町字孫石
標高	約 450m（山間地）
事業名	豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業
事業者名	県企業庁　研究施設用地開発課
調査主体	愛知県埋蔵文化財センター
調査担当	鈴木正貴・小澤一弘
支援業者	（株）二友組
調査期間	平成 25 年４月～11 月
調査面積	7600 ㎡
調査区	４区（13A 区～13D 区）
主要遺構	縄文時代：陥し穴
	平安時代：掘立柱建物・鍛冶炉・溝・土坑
	近代　　：炭焼き窯
主要遺物	縄文時代：有舌尖頭器・縄文土器
	平安時代：灰釉陶器・土師器・鉄滓・鉄鏃
	近代　　：磁器碗

13A区遠景